

## 設問 A

## 【解答例】

自然科学は歴史、時代、文化に関わりのない自然を対象とし、一度確認された事実は万人の所有物になる。後の研究においては確立された事実をそのまま受け取り、その先の事実を求めればよいことになる。一方、哲学や文学は、ある歴史や時代、文化としての「私」に関わっており、万人の所有物にならない。前の時代の仕事が次の時代の仕事の基礎となりながら完全には吸収されず、それ自身として次の時代にも存在し続けるから。

## 設問 B

## 【解答例 1】

社会科学は社会現象を対象とする。分析を行うためには、社会現象を人間社会に生じる普遍的な現象として捉える視点と特定の時代や文化的背景の中で形成されてきたという視点の両方が必要である。だから、古典を読み解き、俯瞰的な視点を持つ必要があるとともに現代の論文から社会現象に関わる知見について情報収集する必要がある。例えば、現代の若者の政治意識についての研究を行うとする。まず古典から政治とは何か、政治意識とは何かということについての原理的な概念とそうした概念が形成された背景について理解する必要がある。しかし、かつて着目された「若者の政治意識」と現代の「若者の政治意識」は社会的文脈が異なることが考えられる。政党政治自体の混迷、情報化の進展、家族形態の変化の中でのライフプランの変化などといった現代的な状況と「政治意識」との関わりを調査し、「若者の政治意識」の変容と今後について研究していくこととなる。

## 【解答例 2】

文学や哲学は歴史を超えた人間にとって普遍的な経験や真理を追求するものだが、社会科学は基本的には現代社会の諸問題の実践的解決のために研究される。そのため古典の研究は、方法論や視点を学ぶためだけに限られ、現代の状況について分析した専門の学術雑誌の方が詳しく読まれる。

合計特殊出生率の低下は経済の発展段階に対応した不可避のものであるという一般的認識があるが、現代の少子化はそうではないようだ。そこで一般に、一人当たり GDP がある点を超えて先進社会となった時点で、合計特殊出生率が 2.0 を大幅に下回るということになるという仮説の下、これが正しいかどうかを現在と未来の各国・地域のデータをみて検証する。さらに世界の趨勢から逸脱して、先進社会となっても少子化が進まない国・地域や、先進社会に到達する以前に少子化が始まった国・地域を発見して、そうなった要因を探ることになる。

## 【解答例 3】

社会において法、政治、経済の各領域がある自律性をもつようになった近代社会で、社会科学の各分野が形成されたため、社会科学が用いる諸概念が現れた古典が読まれる。また現代ではそれら諸領域の間が深く影響しあっており、その情報が取り入れなければならないので、専門雑誌が読まれる。

たとえば合計特殊出生率の低下という現象は、現代の先進社会に共通して見られるもので、高度に発達した資本主義社会がもっている根本構造に根差すものであるようだ。そこで、家族という人間がその種の成立の当初からもっていた社会的関係について主題化し、

その機能が現代の資本主義社会でどのように代替されているのか、いないのかを探っていく。そのためには、現代の家族と過去のさまざまな社会における家族とを比較研究し、家族の機能が現代資本主義によってどのように代替され、失われていったかを研究していくことになる。

**【解答例 4】**

社会科学者は、概念装置の獲得のために古典を読み、その視点から人と社会の関わりや営みである社会現象を捉える。だが、変化が早く、多岐にわたる社会現象の現在形を定量的・定性的に分析し、普遍的な法則やモデルを導くためには、自然科学と同様に専門雑誌を読む必要がある。私が社会学者ならば、環境問題に対して、環境保全のために何が必要かという問いを立てるだろう。自然破壊の原因は、経済効率優先の資本主義に内包されている。その反省から生産と消費が結びつく循環型経済への移行が欠かせない。この視点は古典を読むことで備わる。近年、生物多様性の観点から、より複雑な生態系が社会構造に大きく関わっていることが明らかになっている。各種統計や専門雑誌に触れることで、古典的視点を生かしつつ、環境を壊さぬための仕組みを掘り下げられる。それにより、多様な価値観を保ちながら自然と社会が共生する高度な秩序を検討できるだろう。